

エコアクション 21

2023年度環境経営レポート

対象期間 2023年1月～2023年12月



認証・登録番号 0000534

株式会社 九州発条

2024年4月28日

1、 レポート表紙

2、 目次

I、組織の概要(事業の認識範囲) 実施体制	1ページ~2ページ
II、環境経営方針	3ページ
III、環境経営目標	4ページ
IV、環境経営計画	5ページ
V、環境経営目標の達成状況とその評価	6ページ
VI、過去3年間の実績推移グラフ	7ページ
VII、環境経営目標の取組結果と評価及び 次年度の取組内容	8ページ
VIII、次年度への環境経営計画	9ページ
IX、環境関連法規等の遵守状況の確認確 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	10ページ
X、代表者による全体評価等の見直し・指示	11ページ

I. 組織の概要

2024年1月1日現在改定

1. 事業所名及び代表者

株式会社 九州発条
代表取締役社長 安心院 淳一

2. 所在地

名称	〒番号	所在地	延床面積	備考
本社工場	802-0011	福岡県北九州市小倉北区重住三丁目4番25号	704m ²	一括管理
山田工場	821-0012	福岡県嘉麻市上山田104番地	805m ²	

3. 環境管理責任者、事務局担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者 安心院 宏二 TEL 093-931-0484
FAX 093-931-0485
事務局担当 安心院 淳一 E-mail kyuhatsu@mocha.ocn.ne.jp

4. 事業活動概要

1. 金属製コイルばね製造・販売業
2. 白蟻駆除事業及びコインランドリー事業

5. 事業規模

活動の規模	単位	2021年度	2022年度	2023年度
主要品生産量	t	47	27	27
売上高	百万円	144	131	128
従業員	人	18	18	18
床面積	m ²	1508	1508	1508

6. 事業年度対象期間

2023年1月1日～12月31日

7. 事業の認証・登録範囲

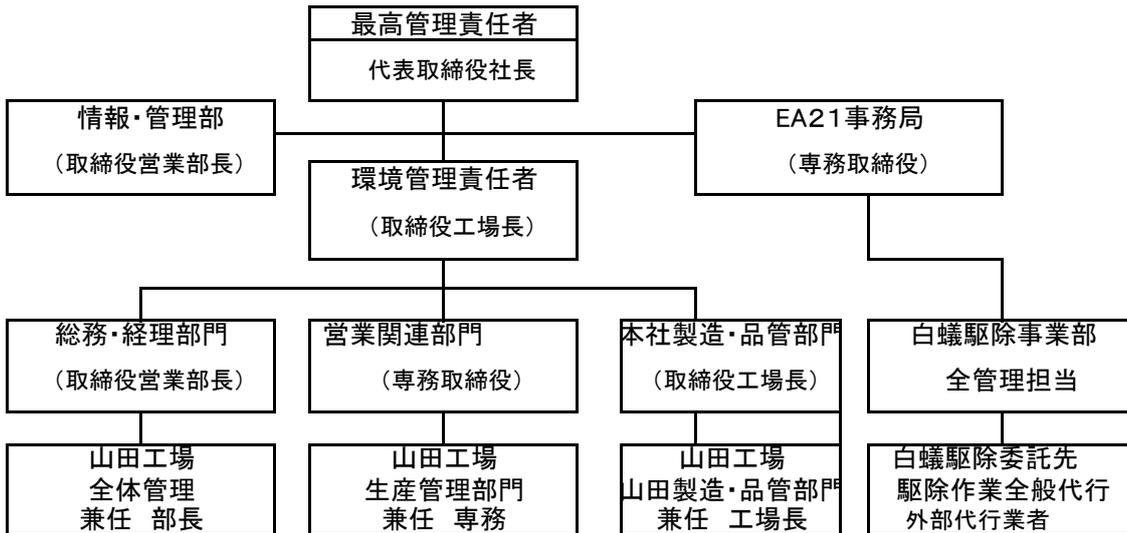
1. 対象組織 : 本社・工場 登録番号: 0000534 初回登録: 2005年12月22日
山田工場 本社一括管理
2. 対象活動範囲 : 各種ばね生産・販売の設計・製造メーカー及び白蟻駆除/コインランドリー事業において共通の付帯サービス

組織実施体制

2023年4月20日現在

エコアクション21

組織図



【関係者の権限及び役割】

- 社長 [本社工場]
1. 環境経営方針の作成
 2. 環境経営全般に関する責任と権限
 3. 環境経営に必要な資源の準備
 4. 環境経営システム全体の評価と見直し
 5. 環境管理責任者の任命
 6. 経営における課題とチャンス^の明確化

- 環境管理責任者 [本社工場]
1. 環境管理システム全般の運用と管理
 2. 環境目標及び環境活動計画の作成
 3. 取組状況の社長への報告
 4. 環境活動レポートの作成

- EA21事務局 [本社工場]
1. 環境負荷データ等の集計
 2. 環境目標・環境活動計画の進行管理
 3. 『環境負荷』及び『環境への取組』の自己チェックの実施
 4. 環境管理責任者へ取組状況の報告
 5. 法規制の遵守状況チェック
 6. 文書・記録の管理

- 各部門長 [本社工場][山田工場]
- ※ 山田工場の部門長が長期休職のため本社工場長が代行(兼務)
1. 部門の環境活動計画のの実施
 2. 部門データの集計
 3. 部門の問題点把握と是正対策の実施
 4. 部門取組状況の事務局への報告
 5. 部門の従業員教育／訓練

- その他従業員 [本社工場][山田工場]
1. 自分の役割を守りエコアクション21活動を推進する

Ⅱ. 環境経営方針

基本理念

株式会社九州発条は、地球環境改善を重要課題と位置づけ、ものづくりばねメーカーでお客様に機能を奉仕する企業であり、事業活動を通じて環境への負荷低減を積極的に取り組みます。

そのため、環境経営システムを構築・運用することで継続的かつ着実に環境保全活動を行い、更に「SDGs管理活動」を導入し次世代に承継できる環境の実現を目指す所存です。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し、環境関連法規等を遵守すると共に、環境負荷の低減に取り組みます。以下の行動指針に基づき、環境目標及び環境経営活動計画を定め、定期的な見直しを行い継続性の活動を展開する。

本社工場・山田工場の一括管理活動を継続して、更に今年度よりコインランドリーの無人化事業の導入で電力・ガス・水の使用量実績管理を実行する

- 1、二酸化炭素の排出量低減
 - ・節電を励行するとともに、本社・山田の各工程における効率的なエネルギー使用を推進する。
 - ・エコドライブを実施して私用車の燃料一本化、ヒーター用灯油使用量等を削減する。
 - ・コインランドリー導入で電力・ガス・水の使用量増加が見込まれ「ガス」のみCO₂負荷発生。
但し(電力は再エネ100%電力)脱酸素電力[0]を導入使用とする。
- 2、廃棄物の排出量削減
 - ・セッティング技術向上を推進、セットロス・端材(スクラップ)の低減に取り組む。
 - ・一般廃棄物の分別を実行し、リサイクル料負担低減推進を継続する。
 - ・書類等の電子化を推進、紙両面印刷、シュレッターでの緩衝材再利用推進。
- 3、水使用量の低減
 - ・生産工程の水使用はなし。
 - ・節水に努め、水使用量を低減(月/100m³以内)。
 - ・コインランドリーは大量の洗濯水で使用量が拡大する。
- 4、環境に良い商品・サービスの採用・グリーン購入に努める。
- 5、事業活動に関連する環境関連法規や条例等を遵守。
- 6、この環境経営方針は、社員全員参加に周知して環境保全に向けて意識の向上に努める。
- 7、この環境経営方針は広く一般に公表します。

2024年4月22日 一部改訂

株式会社 九州発条

代表取締役社長 安心院 淳一

Ⅲ. 環境経営目標

2021年度実績を参考に中期目標の一部改訂をした。2023年審査時コインランドリー事業の取組活動指導が発生した為、2021年度目標基準値の表記数値の補正を実施目標値を改定し取組内容は継続

売上額 144

安心院宏二

環境目標		単位	基準年度	2022年度	2023年度	2024年	2025年	
			2021年度	1%減減 0.99	2%減減 0.98	3%減減 0.97	4%減減 0.96	
二酸化炭素総排出量削減		kg-CO ₂ /年	16,915	16,746	16,577	16,408	16,238	
売上対比		kg-CO ₂ /百万	117	116	116	115	115	
1-1	電力使用量 (本社/工場) [ランドリー参考値 暫定目標「電力」]	KWh/年	65,663	65,006	64,350	63,693	63,036	
		KWh/年	50,743	50,236	49,728	49,221	48,713	
		KWh/年	14,920	14,920	14,920	14,920	14,920	
		KWh/百万	456	451	447	442	438	
		kg-CO ₂	0	0	0	0	0	
0.00		kg-CO ₂ /百万	0	0	0	0	0	
1-2	電力使用量 (山田)	KWh/年	43,236	42,804	42,371	41,939	41,507	
		KWh/百万	300	297	294	291	288	
		kg-CO ₂	0	0	0	0	0	
		kg-CO ₂ /百万	0	0	0	0	0	
1-3	LPGガス使用量 [ランドリー参考値 暫定目標「ガス」]	kg/年	3,137	3,137	3,137	3,137	3,137	
		kg/百万	22	22	22	22	22	
		kg-CO ₂	6,494	6,494	6,494	6,494	6,494	
		kg-CO ₂ /百万	45	45	45	45	45	
2.07								
1-4	ガソリン使用量 (本社)	L/年	3,955	3,915	3,876	3,836	3,797	
		L/百万	27	27	27	27	26	
		kg-CO ₂	9,176	9,084	8,992	8,900	8,809	
		kg-CO ₂ /百万	64	63	62	62	61	
2.32								
1-5	灯油使用量 (山田) 固定	L/年	500	500	500	500	500	
		L/百万	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	
		kg-CO ₂	1,245	1,245	1,245	1,245	1,245	
		kg-CO ₂ /百万	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	
2.49								
2	一般廃棄物量 売上対比	kg/年	704	697	690	683	676	
		kg/百万	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	
		(本社)	kg/年	446	442	437	433	428
	産業廃棄物量 売上対比	kg/年	1,439	1,425	1,410	1,396	1,381	
		kg/百万円	10	9.9	9.8	9.7	9.6	
		(本社)	kg/年	965	955	946	936	926
2-2	(山田)	kg/年	474	469	465	460	455	
3	水使用量削減 売上対比 暫定目標	m ³ /年	1115	1115	1115	1115	1115	
		m ³ /百万円	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	
		(本社) 固定	m ³ /年	80	80	80	80	80
		[ランドリー「水」	m ³ /年	1011	1011	1011	1011	1011
		(山田) 固定	m ³ /年	24	24	24	24	24
4	化学物質適正保管量 機械油濾過再利用	濾過	濾過使用	濾過使用	濾過使用	濾過使用	濾過使用	
		再利用	再利用	再利用	再利用	再利用		
5	グリーン調達 の推進 数値管理出来ない	備品・事務用品	優先購入	[優先購入]	[優先購入]	[優先購入]	[優先購入]	
			数値管理無	(文具優先)	(文具優先)	(文具優先)	(文具優先)	
6	生産・販売に関する 環境配慮(クレーム)	クレーム数削減	3件以内	3	3	3	3	

購入電力のリコージャパン(株)に切替え、電力排出係数(2019年10月/0.000=kg-CO₂/kWh)を適用

- 1、 次年度より環境経営目標は2021年度実績を基準目標値として改定し、継続活動をする所存であり、よって九州発条及び山田工場として事業所単位の目標設定をして一括管理で活動継続。
- 2、 二酸化炭素の排出量は、コインランドリーの電力「再エネ0」を使用するが ガスについてはCO₂の排出量が発生するため排出量負荷が拡大することになる。
- 3、 コインランドリーに関連した、電力・ガス・水に関しては客足層の確保が不透明の無人化事業であり改善目標値は22年度の実績を参考値としたが、環境改善目標の活動計画としては厳しい判断とする。
(よって、自主改善・評価見直しは困難、従って使用量実績集計のみの表示とする)

IV. 環境経営活動取組計画

(株)九州発条

作成 安心院 宏二

- 弊社は、再エネ100%電力の脱炭素電力を導入CO2排出量「0」とした事は大気汚染で大きな貢献が出来る。
- 活動において、「生産性向上」「工場における効率的エネルギー使用推進」で低減・削減の改善意識が進めば持続可能な組織づくりに取り組んで行く。
- 社員が安心して働ける企業に労働時間、休暇管理の徹底 健康診断やメンタルケアによる健康管理が望める。
- コインランドリー事業取組活動の不備指摘が発生し、その枠組み内容に部分的追記した。
(取組期間： 2023年1月～2023年12月)

環境活動	自己チェックリスト	取組むべき項目	担当	年活動1月～12月	
① 二酸化炭素削減	1. エネルギーの削減 [本社のみ]	エコドライブ・運転管理の取組 ランドリー無人化事業導入 自動共給排出／実績集計	アイドリングストップ 洗濯・乾燥機器はお客選択主導外部委託 電気CO2排出「0」／ガスのみCO2排出	専務 部長 井上 田中	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	2. 設備管理の入替・更新 (事務所)	事務機器の省エネ化推進 空調機の定期的自主点検	地域指定業者対応 シュレッターでの再利用 高効率蛍光灯照明機器の導入	部長 富田	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	※ 再度のコロナ防衛対策を踏まえ、受注量の減少傾向が続き時短活動を変更せず、引き続き設備投資を当面据え置くとともに雇用者の確保を優先する				
	3. 設備管理の入替・更新 工場[本社・山田]	生産性の向上推進 セット時間ロスの低減 機器類の電力遮断推進	機械不使用時の電力遮断	工場長 淀川 長谷	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
4. ランドリー事業 設備入替・更新	基本的に初期管理委託 省エネ機器の導入	無人化事業で初期管理委託で十分 機器故障、不具合等その都度対応			
② 廃棄物の削減	1. 一般廃棄物 市指定業者 工場[本社・山田]	市指定業者へ委託 (指定分別袋)	分別処理(焼却・缶・瓶)	田中 末本	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	2. 市指定業者 へ転売 工場[本社・山田]	SWP線材(ばね用) SUS線材(ばね用) 再生利用	指定業者へ売却処理 端材の有効利用(スクラップ) 使用材廃材分別処理	工場長 淀川	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
③ 水使用量削減	生産工程内 未使用 工場[本社・山田]	公共用水のみ使用 飲料水、手洗い、トイレ	節水運動実行 (基準使用量内以下) 水漏れ点検実施	全員	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	ランドリー事業	基本的に無人化事業 自動給排水／実績集計 参考値は「固定式継続」	目標は暫定処置「参考値」、実績のみ表記し 洗濯機器稼働はお客様選択主導型 実績集計のみ	田中 富田	
④ 化学物質削減	1. 適正保管管理 工場[本社・山田]	工程内機械油の再利用	成型機摩擦油投入後自然濾過	工場長	
	2. 白蟻駆除 作業は関係先 へ委託 [本社のみ]	駆除作業は 外部委託とする	適正保管管理 MSDS管理 (自社薬品在庫管理は中止)	専務	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
グリー ン購 入	再生品購入 [本社のみ]	事務用品等購入	優先購入数値管理はしない	部長 田中 末本	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
クレ ーム 対 策	環境配慮 [本社のみ]	ユーザーの要望に対応 クレーム管理 納期管理	品質等の対応クレーム数削減 (年間3件以下設定)	専務 工場長	⇒ ⇒ ⇒ ⇒

V 環境目標の達成状況とその評価

※山田工場参入部分修正 作成

2024年4月/22日作成

2023年度(1/1~12/31)環境目標とその評価

2023年度売上(百万円) 128

環境目標	単位	2023年度				評価		
		2021年度 (R3年変更) 基準年度	2022年度 (令和5年1月~令和5年12月) 目標(2%)	実績	達成率/評価			
二酸化炭素排出量 売上対比	kg-CO ₂ kg-CO ₂ /百万	16,915 117	16,577 115	16,080 126	103% ×	1. 全体的な評価判断および見直しは正判断基準は75%以下とする 2. 2023年度(コインランドリー活動は客足層不透明で暫定的(参考値)として取り組むが機器稼働はお客様主導で評価等は対象外とする。 本社コインランドリー事業活動に電力・ガス使用による二酸化炭素の増加の実績が加算された、売上対比は受注量減少で未達成となった。		
1 0.000	1-1 電力使用量 (本社・工場) (ランドリー)参考値	kWh	65,663	64,350	55,846	115%	全体的に目標達成、ランドリーは未達成 本体生産稼働時間短縮の調整を実施したことで、その効果反映 ランドリー暫定目標は客足層の増減が不透明で使用量集計実績のみを管理した。(評価対象外) 二酸化炭素の排出は、「CO ₂ フリー電力整備により大きな効果。	
		kWh/百万	456	447	436	○		
	kg-CO ₂	0	0	0	—			
	kg-CO ₂ /百万	0	0	0	○			
	1-2 電力使用量 (山田)	kWh	43,236	42,371	35,909	118%		
		kg-CO ₂	0	0	0	—		
	0.000	kg-CO ₂ /百万	0	0	0	○		
		kg-CO ₂ /百万	0	0	0	○		
	1-3 ガソリン使用量 (本社のみ)	L/年	3,955	3,876	3,709	104%		営業・配送関係は車両の配送効率が発揮出来た。 しかしながら、配送に関しては 小ロット、分割納入が日常化されて 必要以上の負荷が発生傾向にある。
		L/百万	27	27	29	×		
kg-CO ₂		9,176	8,992	8,605	104%			
kg-CO ₂ /百万		64	63	67	×			
2.32	1-4 灯油使用量 (山田のみ) 固定	L/年	500	500	460	109%	期間限定暖房使用が優先で工程内使用は必要時に特定使用。 売上金額の減少により達成率の負荷増 環境目標は固定化とする。	
		L/百万	3.5	3.5	3.6	×		
	kg-CO ₂	1,245	1,245	1,145	109%			
	kg-CO ₂ /百万	9.0	8.8	8.9	×			
1-5 LPGガス使用量 (ランドリー)参考値	kg/年	3,137	3,137	3,058	103%	目標自体は、客足層が左右する不透明で暫定的目標(参考値)を 設定し月々の実績を主体に管理するが評価対象外とする。 二酸化炭素の排出は、「CO ₂ LPGガス使用全体の負荷は 売上比は拡大した		
	kg/百万	22	22	24	△			
	kg-CO ₂	6,494	6,494	6,330	103%			
	kg-CO ₂ /百万	45	45	49	△			
2 2.1	一般廃棄物排出量 売上対比	kg/年	704	690	553	125%	全体的に本社・工場/山田工場、努力してると判断。	
		kg/百万	5.0	4.9	4.3	○		
	(本社)	446	437	358	○			
	(山田)	258	253	195	○			
2-2 産業廃棄物排出量 売上対比	kg/年	1,439	1,410	1,092	129%	セットロスの効果が見られる。		
	kg/百万	10	9.8	8.5	○			
	(本社)	965	946	627	○			
	(山田)	474	465	465	○			
3 2.49	水使用量 売上対比	m ³	1,115	1,115	1,126	99%	本社事務所工場・山田工場のばね生産は通常使用量 ランドリーの実績負荷が全体のウエイト比率として大きい 前記判断同様評価対象外とする。	
		m ³ /百万	7.7	7.7	8.8	×		
	(本社) 固定	80	80	80	○			
	(ランドリー)参考値	1,011	1,011	1,030	△			
	(山田) 固定	24	24	16	○			
4	化学物質使用量 適正保管	—	濾過使用	濾過使用	—	・外部施行委託薬品委託先保管で自社保管無		
5	グリーン購入推進 再生品等	—	購入拡大 (文具等)	優先購入推進	—	・数値管理は無 再生品優先購入		
6	生産・販売・サービス に関する環境配慮	件	クレーム数 3以内	3	1	—	・本年度はクレーム1件で表示シールの品番ミス標記	

※ 電力は⇒リコージャパン(株)に切り替え、二酸化炭素排出量の実績は同社の令和1年度調整後排出係数(メニュー-A0.000kg-CO₂/kWh)を使用

環境目標の状況と評価

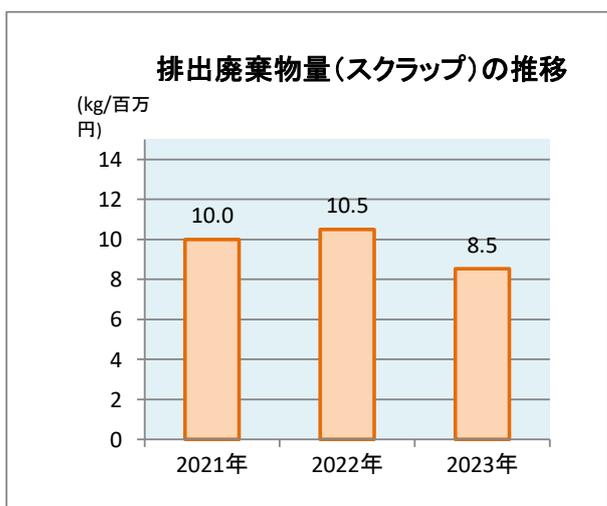
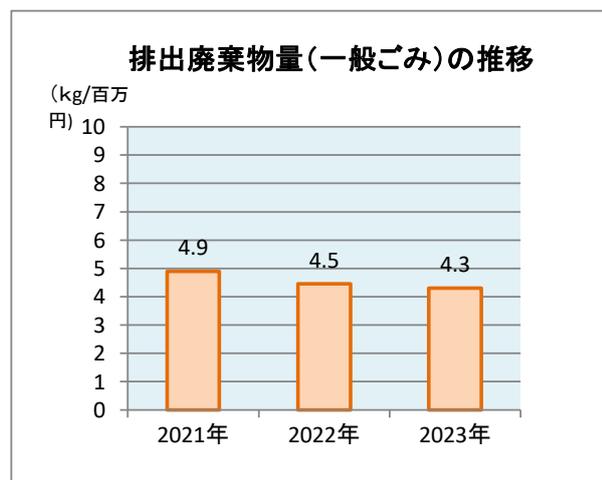
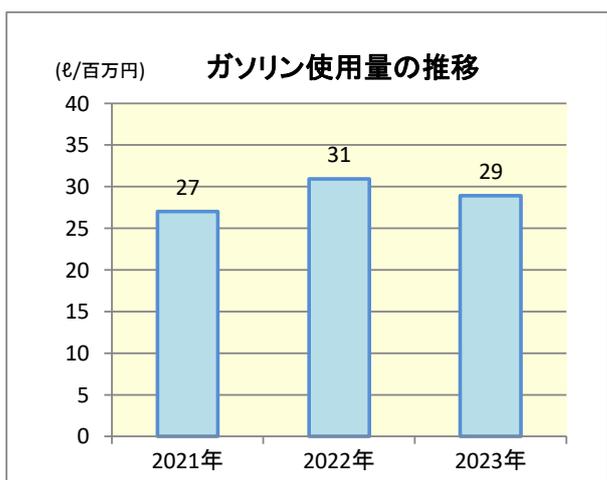
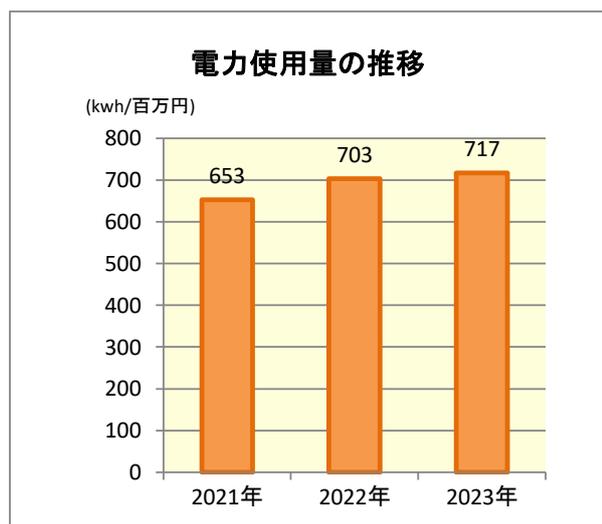
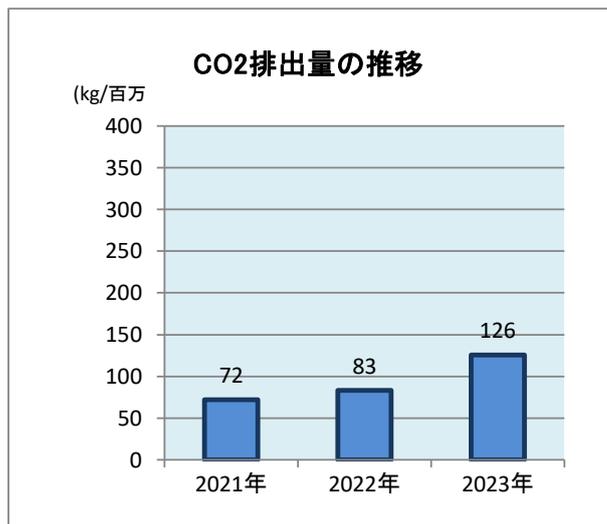
環境目標	評価	目標達成内容確認判断
①二酸化炭素排出削減	○ 達成	※ 受注・生産量の減少及び小ロット生産負荷により売上対比は厳しい状況で先行き不透明継続
①-1 電力使用量削減	○ 達成	※ 全使用量は本社達成するが、ランドリーの使用量は未達成で客層増加と判断 CO ₂ フリー電力は効果大
①-2 電力使用量削減	○ 達成	特記事項なし
①-3 ガソリン使用量削減	○ 達成	※ 配送体制の改善策活動改善は見られたが小ロット及び短納期の要望対応が今後の課題とされる。
①-4 灯油使用量削減	○ 達成	※ 必要時のみ使用で暖気を確保、(本社工場は使用不可)今年度は製品表面乾燥に使用。
①-5 LNGガス使用量削減	△	※ 新規ランドリー事業は活動目標暫定目標(参考値)で、客足層が不透明であり実績表示のみとする。
② 廃棄物排出削減	○ 達成	特記事項なし
②-1 焼却/再生	○ 達成	廃棄物に関しては、一般ごみ、スクラップに関して予測範囲で進められている。
②-2 スクラップ	○ 達成	特記事項なし
3 水使用量削減	○ 達成	コインランドリー選択水使用により大幅増加が表面化した。
4 化学物質適正保管	○ 達成	※ 自社機械油は濾過後再利用をする、微量保管管理継続、白蟻駆除薬品は作業委託業者へ一任
5 グリーン調達	○ 達成	※ 通常品としての購入販路が確立されている。事務用品が主流で数値管理は厳しく困難。
6 環境配慮クレーム数管理	○ 達成	※ 品質管理、技術伝承、生産性向上に取り組んでお客様に機能を牽引しクレーム数「0」に務めた
記録日(記録者)		2024.4.22(工場長)

環境活動取組の実施状況と評価

No	環境活動	評価	1月~12月評価及び見直し
1	アイドリングストップ	○	特記事項なし
	エアコンの設定温度を決める	○	※ ロシアのウクライナ侵攻が長引き材料の高騰をはじめ輸送機関が停滞することで 市場経済は悪化 ものづくり企業は環境経営に厳しい状況下この局面を打開するためには 最優先課題は国としての経済政策の策定、景気回復施策を前倒して市場回復を望みたい。
	機器不使用時の電力遮断	○	
	段取り時間の時間ロス低減	○	
	高効率蛍光灯照明機器導入	○	
シュレッダー処理の再利用	○		
2	廃棄物(焼却・再生等)分別 端材(スクラップ)転売分別	○	※ 活動取組みについては、通常通りの活動を継続して進めているので別に大きな 問題・課題は有りません。
	特記事項なし	○	特記事項なし
3	節水活動の推進 (工場工程内使用はしていない)	△	※ コインランドリー 一般管理は、警備保障会社へ初期管理を委託 (ビデオカメラ設置) 屋内清掃及び・新聞・情報誌・バス時刻表等々のサービス提供
4	化学物質使用量適正保管 濾過油適正保管・MSDS管理	○	特記事項なし
5	グリーン商品の優先購入 (事務用品再生品等)	○	※特記事項なし
6	環境配慮推進クレーム数低減 (クレーム件数管理)	○	※特記事項なし
	記録日(記録者)		2024.4.22(工場長)

VI、過去3年間（2021～2023年度）実績推移グラフ

株式会社 九州発条



※2023年の急騰は、弊社経営コインランドリーの排水量(8.0)を当年度より追加した為。

- ① 2021年度よりSDGsに取り組み省エネ100%電力の「脱炭素電力」導入で北九州市より脱炭素先進企業として認定を受け地球温暖化に貢献して行く所存です。
- ② 次年度に向け目標値の改定を実施して、今後も本社・山田工場一丸となって生産性向上並びに環境負荷低減に取り組んで行く所存である。
- ③ 2023年度グラフ表示は、ランドリー電力・水の使用量を加算表示された、ガス使用量はグラフ表示は無し。但し、CO₂排出量にはLPGガスを加算表示されています。

VII. 環境活動への取組結果と評価及び次年度の取組内容

(株)九州発条
作成 安心院 宏二

- 弊社は、再エネ100%電力の脱炭素電力を導入CO2排出量「0」としたことで生産性効率化を優先活動ができた。
- 活動において、「生産性向上」「工場における効率的エネルギー使用推進」で低減・削減の改善意識が進み持続可能な組織づくりに大きく前進しつつあると判断した。
- 社員が安心して働ける企業に労働時間・休暇管理・健康診断・育児・介護支援等々の充実を推進する。
- コインランドリーは、無人化事業であるが、電力・ガス・水の使用量も増減することでその活動取組は客足層の不透明な点と無人化事業であり、数値化活動は厳しいと判断、使用量実績集計のみで取り組む所存です。
(取組期間：2023年1月～2023年12月)

環境活動	自己チェックリスト	取組むべき項目	評価		
① 二酸化炭素削減	1. エネルギーの削減	エコドライブ・運転管理の作業日誌・運転日誌導入 ランドリー(無人化事業)導入 電力・ガス・水の使用量実績管理 全自動給排水管理	※ 車両の配送及び事業活動 アイドリングストップ社用車 お客の利用選択主動型で限定的活動取組となる 無人化事業の為、初期管理は外部委託とする 屋内管理はビデオカメラ設置で初期管理で十分	○ △	継続
	2. 設備管理の入替・更新(事務所)	全事務機器の省エネ化推進 空調機の定期的自主点検 全自動給排水管理	パソコン等々関連事務機器用品 エアコン設定温度決める 高効率蛍光灯照明機器の導入	○	継続
	3. 設備管理の入替・更新(工場)	※ 再度のコロナ防衛対策を踏まえ、受注量の減少傾向が続き時短活動を変更せず、引き続き設備投資を当面据え置くとともに雇用者の確保を優先する 生産機器のNC化推進 生産性の向上推進 工程内の時間ロスの低減 機器類の電力遮断推進	機械不使用時の電力遮断 段取り時間の時間ロス低減	○	継続
	4. ランドリー事業設備機器管理入替・更新	全機器使用自動供給 ビデオカメラ設置初期管理委託 省エネ機器の導入	数値化目標は困難で実績値管理のみとする 事故・要望・苦情。情報提供は逐次対応 新規機器導入は今期据置	△	継続
② 廃棄物の削減	1. 一般廃棄物市指定業者	市指定業者へ委託(指定分別袋) 本社・山田(一括数値管理)	※ 地域指定業者対応 シュレッターでの再利用 廃棄物外(焼却、再生、不燃)分別	○	継続
	2. 市指定業者へ転売	SWP線材(ばね用) SUS線材(ばね用) 再生利用 本社・山田(一括数値管理)	※ 地域指定業者対応 指定業者へ売却処理 端材の有効利用(スクラップ) 使用材廃材分別処理	○	継続
③ 水使用量削減	生産工程内未使用	飲料水、手洗い、トイレ 排水処理は下水道へ	節水運動実行 (基準使用量内以下)	○	継続
	ランドリー事業	全自動給排水管理	洗濯機器稼働はお客使用主動型 数値化目標は困難で実績値管理のみとする (暫定処置で固定方式)	△	継続
④ 化学物質削減	1. 適正保管管理	工程内機械油の再利用	成型機摩擦油投入後自然濾過		
	2. 白蟻駆除作業は関係先へ委託	駆除作業は外部委託とする (本社管理)	適正保管量管理 MSDS管理 (自社薬品在庫管理は中止)	△	継続
グリーン購入	再生品購入	事務用品等購入 (本社管理)	※ 本社一括購入 優先購入数値管理はしない	○	継続
クレーム対策	生産・販売先に関する環境配慮	ユーザーの要望に対応 クレーム管理 納期管理 (本社管理)	※ 本社一括購入 品質等の対応クレーム数削減 (年間3件以下設定)	○	継続

Ⅷ 次年度への環境経営活動取組計画

(株)九州発条

作成 安心院 宏二

- 1、 弊社は、再エネ100%電力の脱炭素電力を導入CO2排出量「0」とした事は大気汚染で大きな貢献が出来る。
 - 2、 活動において、「生産性向上」「工場における効率的エネルギー使用推進」で低減・削減の改善意識が進めば持続可能な組織づくりに取り組んで行く。
 - 3、 社員が安心して働ける企業に労働時間、休暇管理の徹底 健康診断やメンタルケアによる健康管理が望める。
 - 4、 コインランドリー新規事業は、電力・ガス・水の使用量が増減することで低減・削減の取り組みには客足層の不透明な点と無人化事業であり数値化は厳しい判断し使用量実績集計のみで取り組む所存です。
- (取組期間： 2024年1月～2024年12月)

2024年4月22日 作成

環境活動	自己チェックリスト	取組むべき項目	担当者	次年度	
① 二酸化炭素削減	1. エネルギーの削減 [本社のみ]	エコドライブ・運転管理の取組 ランドリー無人化事業 全自動供給排水管理	アイドリングストップ 作業不要時の電力遮断 洗濯・乾燥機器使用は客層選択自動型管理 使用量実績集計、一般初期管理(ビデオ設置)	社長 部長 井上 田中	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	2. 設備管理の入替・更新 (事務所)	事務機器の省エネ化推進 空調機の定期的自主点検	シュレッターでの再利用 高効率蛍光灯照明機器の導入	社長 部長	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	3. 設備管理の入替・更新 工場[本社・山田]	※ 市場停滞の不透明な状況下、受注量の減少傾向がが続き時短活動を変更せず、引続き設備投資を据置き雇用者流出の歯止優先を図る。 生産性の向上推進 セット時間ロスの低減 機器類の電力遮断推進	機械不使用時の電力遮断 段取時間の時間ロス低減	工場長 淀川	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	4. ランドリー事業 設備入替・更新	基本的に初期管理委託 省エネ機器導入	初期管理不具合発生はその都度対応処置 洗濯・乾燥機器使用時間お客選択自動型 無人化事業で初期管理は委託契約で十分	長谷	
② 廃棄物の削減	1. 一般廃棄物 市指定業者 工場[本社・山田]	市指定業者へ委託 (指定分別袋)	分別処理(焼却・缶・瓶)	田中 末本	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	2. 市指定業者 へ転売 工場[本社・山田]	SWP線材(ばね用) SUS線材(ばね用) 再生利用	指定業者へ売却処理 端材の有効利用(スクラップ) 使用材廃材分別処理	工場長 淀川	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
③ 水使用量削減	生産工程内 未使用 工場[本社・山田]	公共用水のみ使用 飲料水、手洗い、トイレ	節水運動実行 (基準使用量内以下) 水漏れ点検実施	全員	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
	ランドリー事業	ランドリー自動給排水で 実績管理のみ(優先)	客足層が不透明で目標値は暫定的(参考値)に 設定するが評価見直しはせず実績集計のみ	田中 富田	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
④ 化学物質削減	1、適正保管管理 工場[本社・山田] 2、白蟻駆除 作業は関係先 へ委託 [本社のみ]	工程内機械油の再利用 駆除作業は 外部委託とする	成型機摩擦油投入後自然濾過 適正保管量管理 MSDS管理 (自社薬品在庫管理は中止)	工場長 専務	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
グリーン購入	再生品購入 [本社のみ]	事務用品等購入	優先購入数値管理はしない	部長 田中 末本	⇒ ⇒ ⇒ ⇒
クレーム対策	環境配慮 [本社のみ]	ユーザーの要望に対応 クレーム管理 納期管理	品質等の対応クレーム数削減 (年間3件以下設定)	専務 工場長	⇒ ⇒ ⇒ ⇒

X、代表者による全体評価等の見直しの結果

概 略

2023年度はウクライナ侵攻が長期化する中、材料、エネルギー、諸経費の高騰が表面化で世界的な供給網の混乱、資源価格の先行きが厳しい経営環境を招いている、我が国の大手企業は減速するもプラス成長維持し粘り強さを示している。

そんな状況下、中小企業は非常に厳しい停滞感により仕事量減少したことで経営環境は更に悪化している。

- 1、 2023年度は本社・山田工場を一括管理で取り組み活動を継続して行くことで各事業所単位で環境目標を設定し今後の効果を把握する
- 2、 実施活動の数値管理は個別に記録表示確認するがレポートの表示は両事業所の数値総数にて実績表示して 見直し判断に変更する。
- 3、 今年度より、コインランドリー事業の環境活動参入にあたり、電気・ガス・水の環境活動の取組計画・環境目標・評価見直しについては、無人化事業であり更に客足層が不透明であり数値化が厳しく実績表示のみを加算標記とする。
(暫定目標として前年度実績を参考値で表示し取組・評価・見直し等は対応しない)
- 4、 ものづくり企業は、コロナ・ウクライナ侵攻拡大により資源材料・部品不足・更に人的負荷等で製造業の業績悪化や経営危機が表面化し先行き景気回復は不透明で今後も厳しい経営環境と判断した。
- 5、 後継者継承の時期にあたり、その条件に恵まれ次年度をメドに世代交代を準備推進中で次年度(2024年)1月から世代交代するある。
- 6、 今期の環境活動は、再エネ100%電力の脱炭素電力を導入したCO2排出量は大幅達成した、今後は電気使用量に関わらずCO2排出量は[0]で地球温暖化に貢献出来ると考えられます。
更に、山田工場の敷地内・工場家屋内の環境整備を進め働き易い作業環境の整備に着手完了した。
- 6、 今期の環境活動は、再エネ100%電力の脱炭素電力を継続導入、CO2排出量は達成した、今後は電気使用量低減に重点を置き、生産効率化に再度挑戦し働き易い作業環境づくりに努力する所存です。
但し、(コインランドリー導入により二酸化炭素(CO2)グラフ上増加表示となった。)